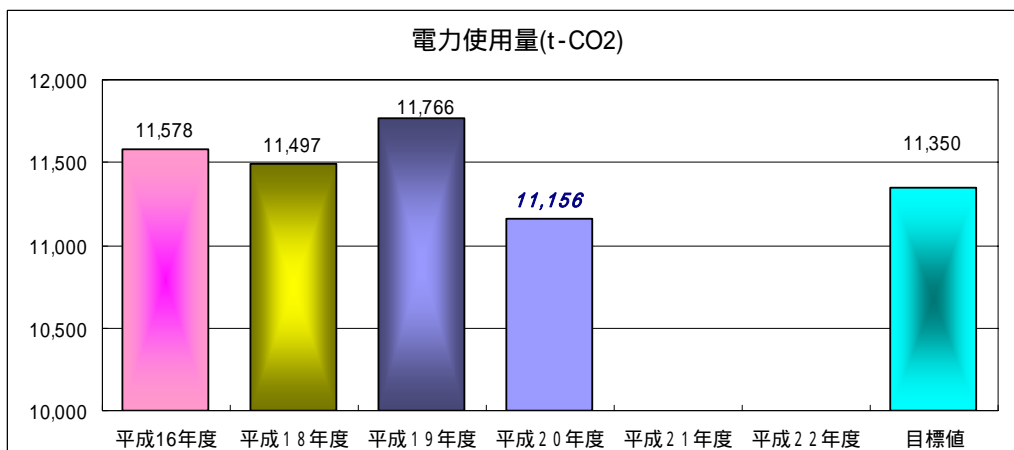


個別調査票

電気使用量

全体目標 平成16年度レベルから2%削減
 (H16実績値: 11,578 t-CO₂ H22目標値: 11,350 t-CO₂)

全体実績(平成20年度) 11,156 t-CO₂
 平成16年度(基準年度)から**3.6%削減**



個別

区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19年度実績 (実績値)	H20年度実績 (実績値)	前年度比較
事務部門					
本庁舎 単位: kWh	2%削減 (66,300)	- (67,836)	9.9%増加 (74,581)	12.0%増加 (75,970)	1.9%増加
事業部門					
大寺浄水場 単位: kWh/m ³	5%削減 (0.380)	- (0.399)	1.3%増加 (0.404)	6.5%削減 (0.373)	7.7%削減
十日市場浄水場 単位: kWh/m ³	13%削減 (0.299)	- (0.344)	13.1%削減 (0.299)	15.7%削減 (0.290)	3.0%削減
第1中継ポンプ場 単位: kWh/m ³	1%削減 (0.224)	- (0.226)	7.1%削減 (0.210)	2.7%削減 (0.220)	4.8%増加
第2中継ポンプ場 単位: kWh/m ³	0%削減 (0.298)	- (0.298)	1.7%増加 (0.303)	4.4%削減 (0.285)	5.9%削減
第3中継ポンプ場 単位: kWh/m ³	10%削減 (0.220)	- (0.245)	9.4%削減 (0.222)	11.4%削減 (0.217)	2.3%削減
第4中継ポンプ場 単位: kWh/m ³	0%削減 (0.189)	- (0.189)	4.8%削減 (0.180)	7.4%削減 (0.175)	2.8%削減
第5中継ポンプ場 単位: kWh/m ³	0%削減 (0.208)	- (0.208)	1.0%増加 (0.210)	1.9%削減 (0.204)	2.9%削減
第6中継ポンプ場 単位: kWh/m ³	0%削減 (0.304)	- (0.304)	2.6%削減 (0.296)	0.7%増加 (0.306)	3.4%増加
その他 単位: kWh	増加させない	- (90,827)	5.9%削減 (85,436)	7.4%削減 (84,123)	1.5%削減

目標及び実績

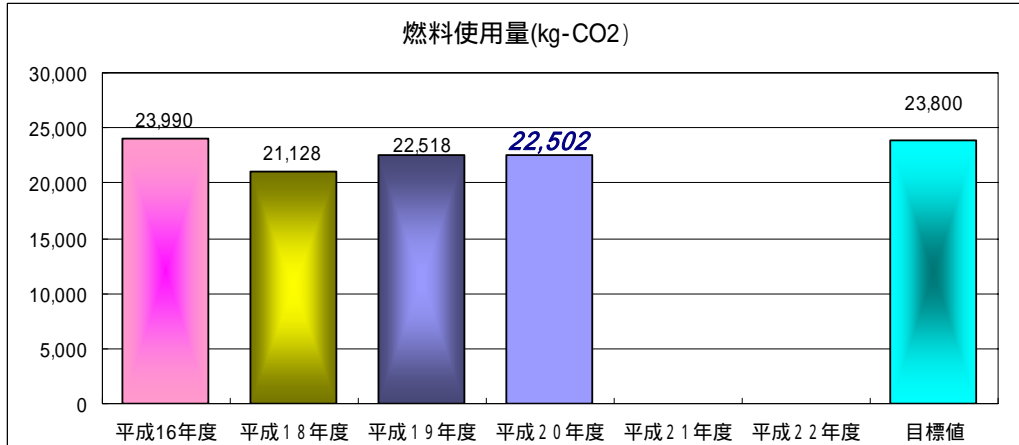
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な措置内容</p>	<p>事務における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー型 OA 機器の導入 ・照明における取組（昼休みの消灯等） ・空調における取組（冷暖房の温度管理等） <p>事業における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送水ポンプの必要揚程の見直しによる羽根車の適正化 ・送水ポンプの運転方法の見直し ・夜間運転へのシフト ・力率改善
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>事務における評価</p> <p>計画どおりに措置を実施することが出来た。</p> <p>本庁舎の増加原因は、本庁舎の空調設備をガス吸収式から電気ヒートポンプ式へ転換したことによる。このため、電気使用量は増加したものの、都市ガス使用量は減少している。</p> <p>事業における評価</p> <p>浄水場及び中継ポンプ場においてポンプを効率的に運転したことにより、基準年に対し、全体電力使用量が 3 . 6 % 削減した。</p> <p>企業団全体の CO₂ 排出量も電力使用量が殆どであることから、基準年度から同様に 3 . 6 % の減少となった。</p> <p>大寺浄水場の流量制御方式はバルブ制御方式であるため、ポンプの運転台数に見合った定格流量で運転すると効率的な運転となるが、構成団体の受水量は毎年・毎月変わるものであり、送水ポンプの定格流量に合わせたものではないため、ポンプを定格流量で運転すると過不足が生じる。大寺浄水場では、この過不足を調整池の余裕水量で調整することで、送水ポンプを定格流量での運転を実施している。この方法は調整池の最低容量（構成団体の受水量 1 2 時間分）は確保するものの、調整池の水位や浄水場の処理水量の変動といったリスクを伴うものである。主要機器の故障は修繕まで長期間かかり予備機の無い状態であった。このことから、2 重のリスクを回避するため、ポンプの定格流量運転を取り止め、構成団体の受水量に見合った送水量でポンプを運転し、常に調整池の水位を高めに保持することとした。これにより送水ポンプを効率的に運転できなかった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方策</p>	<p>事務における方策</p> <p>引き続き取組を行う。</p> <p>事業における方策</p> <p>浄水処理や送水に影響を及ぼす主要機器の適切な点検等により未然に故障を防止する必要がある。</p> <p>施設の更新に併せ省エネ機器（インバータ等）の導入を推進する必要がある。</p> <p>未利用エネルギー（水力落差や太陽光等）の利用を検討する必要がある。</p>

個別調査票

燃料使用量

全体目標 平成16年度レベルから1%削減
 (H16実績値: 23,990 kg-CO₂ H22目標値: 23,800 kg-CO₂)

全体実績(平成20年度) 22,502 kg-CO₂
 平成16年度(基準年度)から**6.2%**の削減



個別

区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19年度実績 (実績値)	H20年度実績 (実績値)	前年度比較
事務部門: 庁用車で使用するガソリン使用量					
ガソリン 単位: L	2%削減 (8,300)	- (8,465)	9.3%削減 (7,680)	8.5%削減 (7,743)	0.8%増加
事業部門: 非常用自家発のA重油					
A重油 単位: L	増加させない (1,190)	- (1,190)	14.3%増加 (1,360)	14.7%増加 (1,365)	0.4%増加

目標及び実績

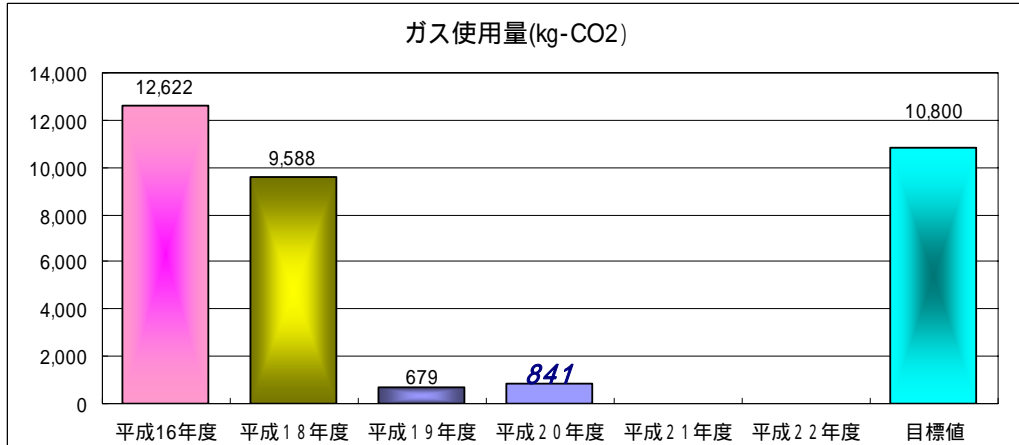
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な措置内容</p>	<p>事務における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低公害車・低燃費車の導入 ・自動車の省エネ運転 ・自動車の相乗り等による利用 ・自転車の活用 <p>事業における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用自家発試運転時間の見直し
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>事務における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりに措置を実施することが出来た。 ・業務量により年度での差はあるものの、目標値以上の削減を達成しており、平成18年度に低公害車・低燃費車へ1台更新したことが大きな理由と考えられる。 <p>事業における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A重油は非常用自家発により使用されるため、その性質から本実行計画においては削減目標を定めていない。試運転時間の見直しもすでに行っていることから、適正な消費量と考えられる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方策</p>	<p>事務における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取組を行う。 ・特に低公害車・低燃費車の導入の効果が高いことから、車両更新時には十分配慮する。 <p>事業における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

個別調査票

ガス使用量（LPG及び都市ガス）

全体目標 平成16年度レベルから14%削減
 （H16実績値：12,622kg-CO₂ H22目標値：10,800kg-CO₂）

全体実績（平成20年度） 841kg-CO₂
 平成16年度（基準年度）から**93%**の削減



個別

区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19年度実績 (実績値)	H20年度実績 (実績値)	前年度比較
事務部門：LPG及び都市ガス					
LPG 単位：kg	LPGは事務と事業に区分できないため、事業部門に記載				
都市ガス 単位：m ³	13%削減 (5,200)	- (6,010)	98.4%削減 (98)	98.1%削減 (116)	18.4%増加
事業部門：LPG（事務で使用了なものを含む）					
LPG 単位：kg	2%削減 (210)	- (215)	25.1%削減 (161)	5.6%削減 (203)	26.1%増加

目標及び実績

<p>主な措置内容</p>	<p>事務における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガスコンロ、湯沸かし器の効率的利用 ・ ガス湯沸かし器の温度管理 <p>事業における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガス湯沸かし器の温度管理 ・ 専用器具の効果的洗浄
<p>評価</p>	<p>事務における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本庁舎の空調設備を更新時にガス吸収式から電気ヒートポンプ蓄熱式へ方式を変更したことにより、平成19年度から使用量が大きく減少している。 <p>事業における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検体数や検査項目の種類により増減の可能性がある。
<p>今後の方策</p>	<p>事務における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き取組を行う。 <p>事業における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き取組を行う。

個別調査票

HFCの排出量																		
目標及び実績	<p>全体目標 増加させない (H 1 6 実績値 : 1 , 1 8 0 kg-CO₂ H 2 2 目標値 : 1 , 1 8 0 kg-CO₂)</p>																	
	<p>全体実績 (平成 2 0 年度) 1 , 1 8 0 kg-CO₂ 平成 1 6 年度 (基準年度) から増加なし</p>																	
	<p>HFC排出量(kg-CO₂)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>HFC排出量(kg-CO₂)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>排出量 (kg-CO₂)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成16年度</td> <td>1,180</td> </tr> <tr> <td>平成18年度</td> <td>1,180</td> </tr> <tr> <td>平成19年度</td> <td>1,180</td> </tr> <tr> <td>平成20年度</td> <td>1,180</td> </tr> <tr> <td>平成21年度</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>平成22年度</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,180</td> </tr> </tbody> </table>	年度	排出量 (kg-CO ₂)	平成16年度	1,180	平成18年度	1,180	平成19年度	1,180	平成20年度	1,180	平成21年度	-	平成22年度	-	目標値	1,180	
	年度	排出量 (kg-CO ₂)																
平成16年度	1,180																	
平成18年度	1,180																	
平成19年度	1,180																	
平成20年度	1,180																	
平成21年度	-																	
平成22年度	-																	
目標値	1,180																	
<p>個別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区 分</th> <th style="width: 15%;">目 標 (目標値)</th> <th style="width: 15%;">基準年度 (H16)実績値</th> <th style="width: 15%;">H19 年度実績 (実績値)</th> <th style="width: 15%;">H20 年度実績 (実績値)</th> <th style="width: 15%;">前年度比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6">事務部門</td> </tr> <tr> <td>都市ガス <small>単位 : kg - CO₂</small></td> <td>増加させない (1 , 1 8 0)</td> <td>- (1 , 1 8 0)</td> <td>- (1 , 1 8 0)</td> <td>- (1 , 1 8 0)</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	目 標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19 年度実績 (実績値)	H20 年度実績 (実績値)	前年度比較	事務部門						都市ガス <small>単位 : kg - CO₂</small>	増加させない (1 , 1 8 0)	- (1 , 1 8 0)	- (1 , 1 8 0)	- (1 , 1 8 0)	-
区 分	目 標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19 年度実績 (実績値)	H20 年度実績 (実績値)	前年度比較													
事務部門																		
都市ガス <small>単位 : kg - CO₂</small>	増加させない (1 , 1 8 0)	- (1 , 1 8 0)	- (1 , 1 8 0)	- (1 , 1 8 0)	-													
主な措置内容	<p>事務における措置 (取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機器等の購入時の配慮 ・ H F C を使用している機器等の廃棄における配慮 																	
評価	<p>事務における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H F C は車両のエアコン使用時に排出されるものであり、車両の保有台数の変更がないことから、H F C の排出量は変化しない。 																	
今後の方策	<p>事務における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き取組を行う。 																	

個別調査票

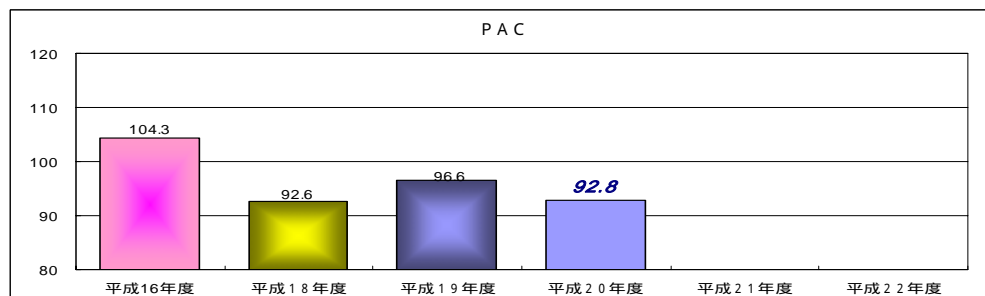
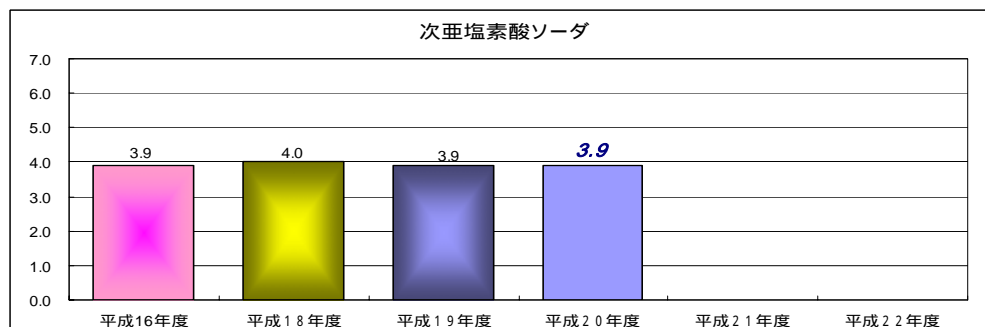
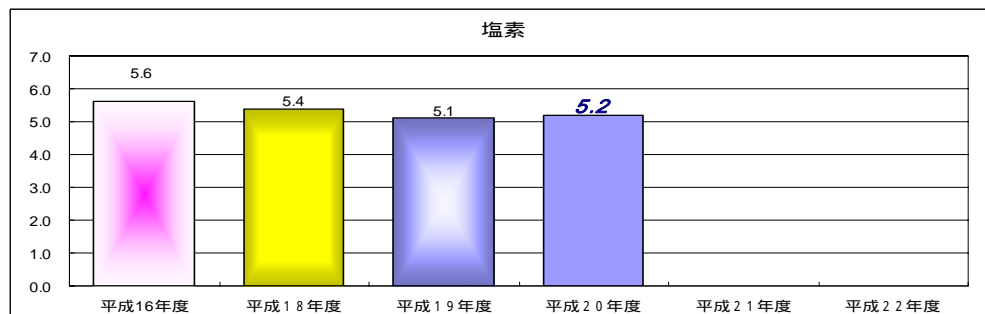
薬品使用量

全体目標 極力減少する

個別

区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19年度実績 (実績値)	H20年度実績 (実績値)	前年度比較
事業部門					
塩素 単位：mg/l	極力削減 (-)	- (5.6)	8.9%削減 (5.1)	7.1%削減 (5.2)	2.0%増加
次亜塩素酸ソーダ 単位：mg/l	極力削減 (-)	- (3.9)	- (3.9)	- (3.9)	-
PAC 単位：mg/l	極力削減 (-)	- (104.3)	7.4%削減 (96.6)	11.0%削減 (92.8)	3.9%削減
苛性ソーダ 単位：mg/l	極力削減 (-)	- (1.5)	73.3%削減 (0.4)	66.7%削減 (0.5)	25.0%増加
粉末活性炭 単位：mg/l	極力削減 (-)	- (0.0)	- (0.0)	- (0.3)	-

目標及び実績



<p>主な措置内容</p>	<p>事業における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水質状況に合わせた適切な薬品注入 ・ 水質変化に伴うジャーテスト頻度の適切化 ・ 高濁度時の一時取水停止・処理量の減量
<p>評価</p>	<p>事業における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度は基準年と比較し、河川の濁度が基準年よりも低いことから各薬品の注入率が減少している。 <p>このことから、上記措置により減少したことが考えられるが、薬品使用量は年々の水質状況の変化により増減することから、評価が困難である。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>事業における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き取組を行う。 ・ 今後は、硫酸注入設備を導入する計画であり、これにより塩素やPACの使用量を低減化することができ、さらに十日市場浄水場の沈殿池等の覆蓋化により次亜塩素酸ソーダの使用量を低減が見込める。

個別調査票

上水使用量等															
目標及び実績	事務目標 極力減少する。														
	事業目標 上水使用量を増加させない														
	実績														
	区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19 年度実績 (実績値)	H20 年度実績 (実績値)	前年度比較									
	事務部門：上水使用量を極力減少する														
	本庁舎 単位：m ³	増加させない (-)	- (531)	12.8%削減 (463)	15.8%削減 (447)	3.5%削減									
大寺浄水場	数量を測定できないため、数値目標なし														
十日市場 浄水場	数量を測定できないため、数値目標なし														
<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> <p>上水使用量 (m³)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px; border-collapse: collapse;"> <caption>上水使用量 (m³)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>上水使用量 (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成16年度</td> <td>531</td> </tr> <tr> <td>平成18年度</td> <td>531</td> </tr> <tr> <td>平成19年度</td> <td>463</td> </tr> <tr> <td>平成20年度</td> <td>447</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>						年度	上水使用量 (m ³)	平成16年度	531	平成18年度	531	平成19年度	463	平成20年度	447
年度	上水使用量 (m ³)														
平成16年度	531														
平成18年度	531														
平成19年度	463														
平成20年度	447														
主な措置内容	事務における措置（取組） <ul style="list-style-type: none"> ・ 節水機器等の導入 ・ 節水等の推進 														
評価	事務における評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空調機器更新時においてクーリングタワーを撤去したことにより、上水使用量が平成19年度から10%を超える削減となった。 事業（水質検査センター）における評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量による評価はできないが、上記措置（取組）を実施している。 														
今後の方策	事務における方策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き取組を行う。 事業（水質検査センター）における方策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量による評価をするために水道メータ取付を検討する。 														

個別調査票

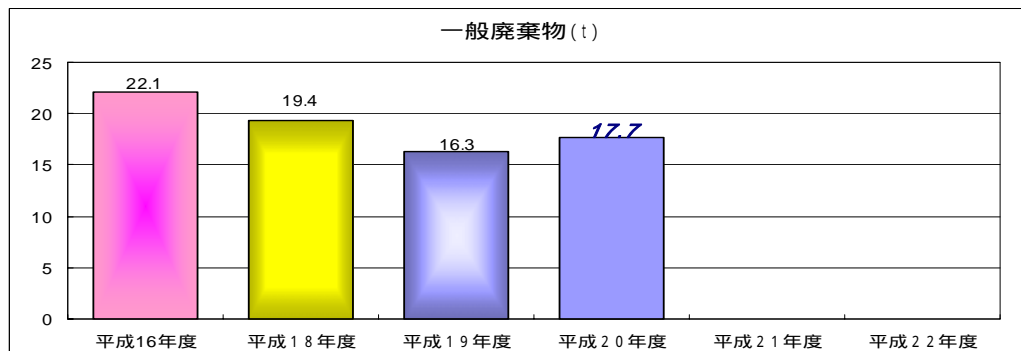
環境における取組（廃棄物）

事務目標 一般廃棄物を極力減少する。

事務実績 17.7 t

平成16年度（基準年度）から20%の削減

区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19年度実績 (実績値)	H20年度実績 (実績値)	前年度比較
本庁舎 単位：kg	極力減少 (-)	- (2,747)	15.0%削減 (2,348)	0.2%増加 (2,752)	17.2%増加
出先機関 単位：kg	極力減少 (-)	- (19,340)	28.1%削減 (13,913)	22.9%削減 (14,905)	7.1%増加



目標及び実績

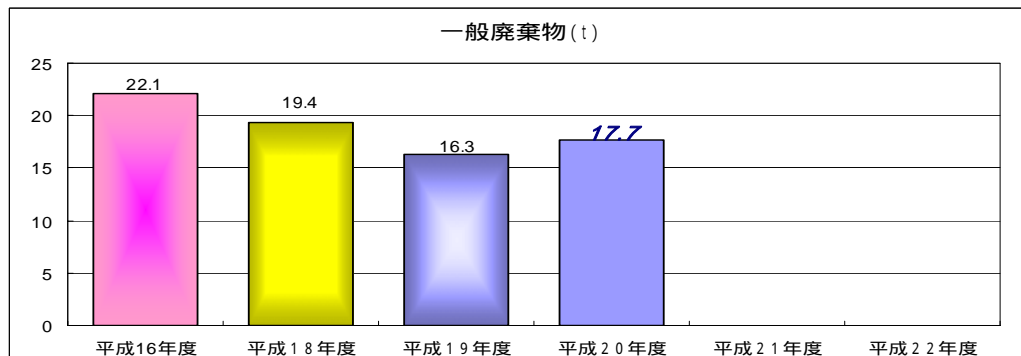
事業目標 産業廃棄物（汚泥スラッジ）を増加させない。
有効利用率80%を保つ。

事業実績 汚泥スラッジ搬出量6,922 m³

平成16年度（基準年度）から11%削減

有効利用率 90%

区分	目標 (目標値)	基準年度 (H16)実績値	H19年度実績 (実績値)	H20年度実績 (実績値)	前年度比較
汚泥スラッジ 単位：m ³	増加させない (-)	- (7,629.5)	19.4%削減 (6,153)	11.3%削減 (6,922)	12.5増加
有効利用率 (%)	80%を保つ (-)	- (83%)	- (90%)	- (90%)	-



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な措置内容</p>	<p>事務における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別回収 ・リサイクルの推進 ・使い捨て製品を極力使用しない <p>事業における措置（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高濁時の一時取水停止・処理水量の減量等 ・所管地の管理に当たっての環境保全
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>事務における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物のほとんどが出先機関における河川からの流木等の漂流物であるため、年度の気象条件等に大きく影響を受ける。 ・一般廃棄物は漂流物の次に紙が多く、平成20年度は前年度と比較し、用紙使用量の増加に伴い廃棄物も増加したと推測される。 <p>事業における評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度の汚泥スラッジは基準年と比較し、11%減少している。これは河川の年間平均濁度が例年より低かったため、汚泥スラッジも減少したと考えられる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方策</p>	<p>事務における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取組を行う。 <p>事業における方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取組を行う。

個別調査票

環境における取組（緑地）	
目標	極力増加する。
主な措置内容	<ul style="list-style-type: none">・敷地内の緑地の推進・緑地の適切な維持管理により二酸化炭素の吸収源としての機能の維持・向上
評価	<ul style="list-style-type: none">・緑地管理委託により適切な維持管理が行われたと考える。・水源である亀山ダム、片倉ダムの公園等の緑地についても、負担金を通じて適切な維持管理が行われたと考える。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none">・引き続き取組を行う。

個別調査票

工事等における取組	
目標	
主な措置内容	<ul style="list-style-type: none">・ 廃棄物等から作られた建設資材の計画的利用・ 建設廃棄物の抑制・ 温室効果ガスの排出の少ない機器の導入・ 温室効果ガスの排出の少ない施工の実施
評価	<ul style="list-style-type: none">・ 千葉県建設リサイクル推進計画に準じて工事を実施していることから、適切に建設資材のリサイクル等を実施している。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none">・ 引き続き取組を実施する。